

保育者養成のための音楽教育のアプローチ —短大生アンケート調査から考える—

木下由香

(2019年3月8日受理)

Approach of Music Education for Childcare Training —think from college students questionnaire survey—

Yuka KINOSHITA

要旨：保育者を目指す短大生が幼児期の音楽教育の重要性についてどのように考えているのかを明らかにするためにアンケート調査を行った。調査内容は、現在受講している音楽系授業の位置付けと意義、学生の幼少期の音楽活動の記憶、保育者としての音楽観についてである。学生は音楽の授業を大切なものと感じており、保育者としての立場からも幼児に対して音楽活動の高い必要性を感じていることが分かった。また音楽経験者や、幼少期に行事で歌や合奏、劇を発表した経験があった学生は、音楽を楽しむだけでなく、子どもに対する音楽的指導をある程度行う必要があると考えていることが分かった。さらに、現在使用されているテキストに関してはあまり興味を持っていないことや、取り上げていない授業内容に関する質問には中庸な回答が目立ったことから、今後教材研究と教育強化を行う必要が明らかとなった。

Key words：音楽教育 保育者養成 学生 音楽観 アンケート 幼稚園教育要領

1. 問題の所在と研究の目的

人間でなければできないこと、それは、感性を働かせ、協働し、新たな価値を生み出すことであり、芸術系教科に大きな期待が寄せられているという趣旨内容の話が、昨年参加した学会シンポジウムにおいてあった。一方で、現代の子どもたちは、音楽の学習に対して、普段の生活や社会に出て役に立つものであると感じていない、という残念なアンケート結果が示された。しかし筆者は、音楽はあらゆる分野に関わる総合的な教科だと感じながらここまで音楽教育に携わってきた。音楽の教科としての存在が危うくならないように、音楽の必要性をもっと前面に出した教育活動が重要と考える。

2016年に日本音楽教育学会が実施した『特集★学習者の視点から学校音楽教育を考える Webアンケート調査から考える』や、国立教育政策研究所教育課程研究センターが実施した『平成24年度小

学校学習指導要領実施状況調査 児童質問紙調査結果（音楽）』によると、音楽の授業が楽しい、役に立っていると感じている子どもたちが小学生で47.4%、中学生で43.2%であることが発表された。¹⁾中でも小学校の教科内では一番低い値であったという。今まさに音楽教育の存在意義を示し、その目的を広く浸透させなければならない。

先行研究では、保育者や音楽教師の音楽観に関する調査は田崎（2013）や古山・瀧川（2017）が行っている。また古山・瀧川（2016）は、大学生を対象に音楽教育観ならびに音楽教師像についてのアンケート調査を行っているが、保育者を目指す短期大学生を対象にした音楽観に関するアンケート調査は見当たらない。

2. アンケート調査の概要

先行研究や平成30年度から実施される教職課程認定に基づく表現（音楽）で取り上げるべき授業内容を参考にアンケート内容を作成した。回答者に負担がかからないよう直観的に答えられるよう五段階評価法を採用した。五段階評価のメリットは、1. 「どちらとも言えない」などのニュートラルな意見

を拾える。2. 直観的に選ぶことができる。3. 多様な質問に利用できる。といった点である。実際のアンケート用紙を示す。【資料1および資料2】

◇対 象：本学幼児教育学科生

◇実施日：2019年1月21日（月）

◇方 法：アンケートによる回答

資料1

「音楽についてどう思う?」「音楽について言いたい!」学習者アンケート

このアンケートは、皆さんが音楽についてどんなことを感じたり、考えたりしているのかを知るためのものです。あなたが思ったとおりに、答えてください。

I 最初にあなたご自身のことについてうかがいます。(番号を○で囲んでください。)

音楽のグレード	1(初級)	2(中級)	3(上級)		
音楽歴	1 ピアノ	2 合唱部	3 吹奏楽部	4 その他	

II 短大の音楽系の授業(ピアノ、声楽、理論、外ミックスなど)についてお聞きします。
(1)以下の質問に5段階で答えてください。(該当欄に○印を記入してください。)

1 音楽系の授業は楽しいですか。

まったく楽しくない	1	2	3	4	5	とても楽しい
-----------	---	---	---	---	---	--------

2 授業ではテキストを使うことが多いですか。

まったく使わない	1	2	3	4	5	とても使う
----------	---	---	---	---	---	-------

3 テキストは興味がある内容ですか。

まったく興味がない	1	2	3	4	5	とても興味がある
-----------	---	---	---	---	---	----------

4 音楽系のテストは必要ですか。

まったく必要ないと思う	1	2	3	4	5	とても必要だと思う
-------------	---	---	---	---	---	-----------

5 音楽系の評価は重要だと思いますか。

まったく重要と思わない	1	2	3	4	5	とても重要だと思う
-------------	---	---	---	---	---	-----------

6 あなたにとって音楽系の授業は大切ですか。

まったく大切ではない	1	2	3	4	5	とても大切である
------------	---	---	---	---	---	----------

7 音楽系の授業で学んだことは日常生活の中で役に立つと思いますか。

まったく思わない	1	2	3	4	5	とても思う
----------	---	---	---	---	---	-------

(2)あなたの意見や考えについて教えてください。特になければ回答しなくてもかまいません。

1 音楽系の授業について 例:「こんな授業だったらいいのに」「こんな授業で楽しい」など

2 テキストについて 例:「テキストのこんなところが面白い」「こんなテキストだったら面白い」など

3 音楽系のテストや評価について 例:「テストがあったほうがいい」「こんなテストや評価だったらいいのに」「評価が嫌な理由」

4 音楽系の授業とあなたの生活について 例:「音楽はこんなことで大切だと思う」「こんなところで生活と関係している」

III あなたの幼少期についてお聞きします。
(1)幼稚園・保育所に通っていた頃の音楽活動を思い出し、いくつでも選んでください。

1. いろいろなうたを歌った。
2. リズムを含む遊びを行った。
3. 担当の保育者がピアノなどで歌伴奏してくれた。
4. 指遊び手遊びをした。
5. お遊戯や外ミックスなど、身体表現を行った。
6. 楽器を手作った。
7. 楽器を使って好きなように音楽を創作した。
8. わらべうたをうたいながら遊んだ。
9. ミュージックベル、ハンドベル、和太鼓などで演奏したことがある。
10. 行事のとき、うたを歌ったことがある。
11. 行事のとき、楽器で合奏したことがある。
12. 劇などを発表したことがある。
13. 行事などで数拍子、マーチングなどで発表したことがある。
14. プロの演奏家の演奏を鑑賞した。
15. コンサートホールに出かけて音楽を鑑賞した。

(2)上記以外に印象に残っている音楽活動があれば、教えてください。

資料2

IV 保育者としてのあなたの考えについてお聞かせします。

(1)以下の質問に5段階で答えてください。(該当欄に○印を記入してください)

1 保育の現場で音楽活動の必要性をどの程度感じていますか。

	1	2	3	4	5	
まったく必要ない						とても必要

2 あまり技術的なことこだわらずに、子どもが楽しめればよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

3 曲の拍子やリズムを正確に叩けることに向けて指導した方がよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

4 正しい音程やリズムで歌えるよう指導した方がよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

5 子どもがのってこない曲は教材からはずした方がよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

6 アニメなどのヒットソングより、できるだけクラシックを聞かせた方がよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

7 わらべうたなど伝統的な遊びを積極的に取り入れた音楽活動を行う方がよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

8 長く歌いつづけた曲の中にはよい歌がたくさんあるので、子どもにも伝えていった方がよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

9 教師が指導することによって、幼児は音楽を楽しめなくなるので指導しない方がよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

10 教師がそばによって指示を出すのではなく、音楽を流すことによって生活の流れ(片づけなど)を作る方がよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

11 聴覚を育てるため、なるべく自然に触れ、環境音を聴く機会を設ける方がよい。

	1	2	3	4	5	
まったく思わない						とても思う

12 ピアノなどの鍵盤楽器は、音楽活動を行う上で絶対に必要である。

	1	2	3	4	5	
まったく必要ない						とても必要

13 子どもの音楽的発達について理解する必要がある。

	1	2	3	4	5	
まったく必要ない						とても必要

14 保育の現場で行う音楽活動の中で、臨機応変に対応できるための即興的な演奏能力が必要である。

	1	2	3	4	5	
まったく必要ない						とても必要

15 子どもの声域の発達を知り、言葉の意味や情景が伝わるような表情豊かな歌唱表現を身につける必要がある。

	1	2	3	4	5	
まったく必要ない						とても必要

(2)あなたの意見や考えについて教えてください。特になければ回答しなくてもかまいません。

1 音楽で子どもたちにどのような力が身につくと考えますか。

2 音楽が徐々に果たす役割があるとすれば、それは何でしょうか。

ご協力ありがとうございました。

3. アンケート調査の結果

【設問Ⅰ】

1回生94名、2回生91名、計185名より回答を得た。学生の習熟度内訳は、1グレード（初級）100名、2グレード（中級）47名、3グレード（上級）27名、未記入 6名である。（ここでいう初級レベルとはピアノ学習経験1～2年、中級レベルは2～10年、上級レベルは10年以上である。）近年は、学生の半数以上がピアノ初心者として入学する状態が続いている。【図1および図2】

図1

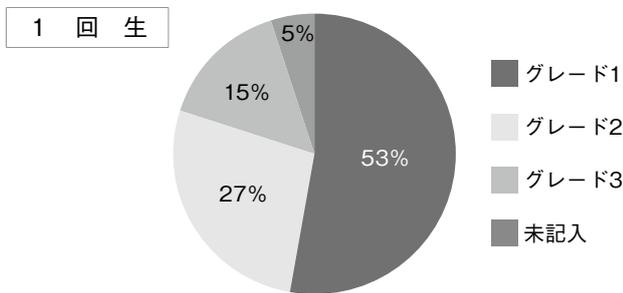
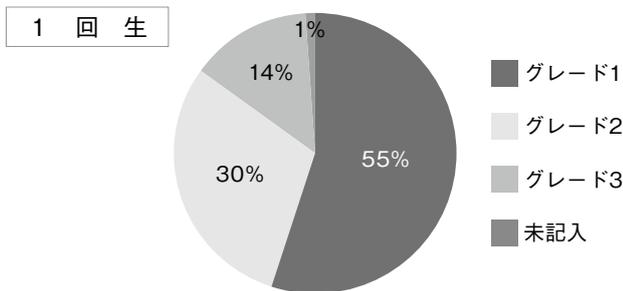


図2



【設問Ⅱ】

短大の音楽系授業（ピアノ、声楽、理論、リトミックなど）に関する学生の意識調査である。

図3

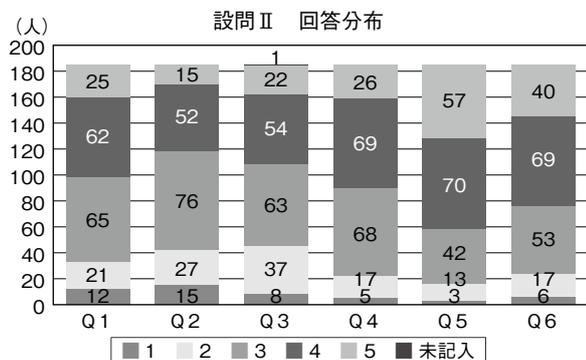


図4

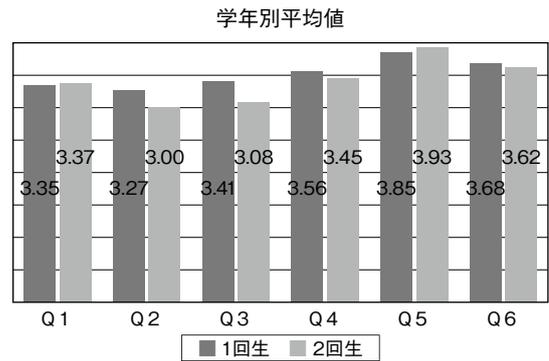


図5

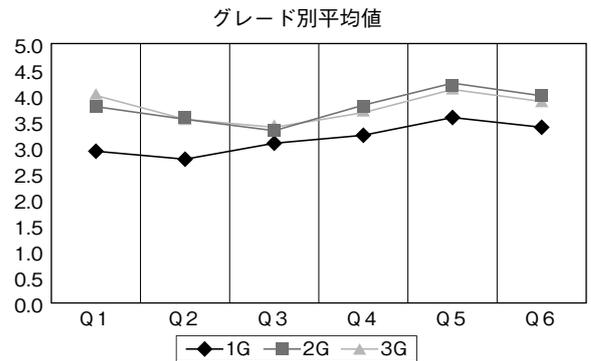


図5から、「Q1. 音楽系の授業は楽しいですか。」という問いに対して、大まかには楽しんでいる傾向がみられる。グレード別では1回生3グレード（上級）の学生が4.21ポイントと高く、授業を最も楽しんでいることが分かった。

「Q2. 授業で使用するテキストは興味がある内容ですか。」という問いに対しては、1グレードの学生には不評であることが分かった。【図5】また2回生全体として、可もなく不可もなくといった印象であることが分かった。【図4】

「Q3. 音楽系のテストは必要ですか。」「Q4. 音楽系の評価は重要だと思いますか。」という問いに対しては、2回生の方がテストや評価の必要性を感じていないことが分かった。

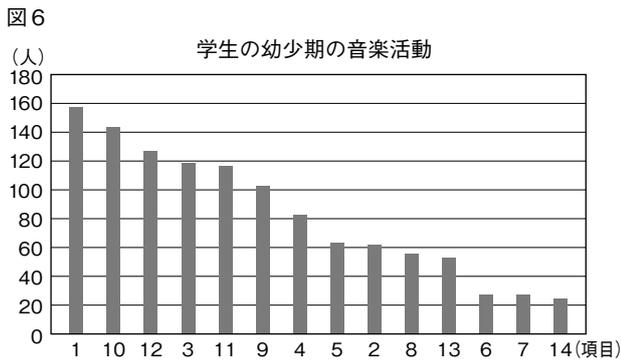
「Q5. あなたにとって音楽系の授業は大切ですか。」という問いに対して、2回生（3.93）、1回生（3.85）と高い。グレード別にみても2回生3グレード（4.15）、1回生3グレード（4.14）、2回生2グレード（4.00）と高いポイントであった。中でも、1回生1グレード（4.36）、2回生1グレード（3.82）は初級者でありながら高いポイントであった。このことから、苦手で楽しくないが授業は大切であると

感じていることがはっきりと分かった。

「Q6. 音楽系の授業で学んだことは日常生活の中で役に立つと思いますか。」という問いに対して、全体的に肯定的に捉えていることが分かった。これは音楽に携わる者として喜ばしい結果である。

【設問Ⅲ】

ここでは、幼少期に幼稚園・保育園に通っていた頃の音楽活動を思い出してもらった。



項目1, 10, 12, 3, 11, 9に見られるように、上位の活動は〈歌唱〉と〈器楽〉の活動であり音楽活動の王道とも言える内容であった。「3. 担当の保育者がピアノなどで歌伴奏をしてくれた。」という項目は120名がチェックをしてくれたが、筆者も同じ体験をし、ピアノを習い始めるきっかけとなり現在に至ることを考えると、子どもにとって大変影響力が大きい出来事のひとつであると言える。

「4. 指遊び手遊びをした。」の項目は、83名と中程度であった。子どもの発達を鑑みると指遊び手遊びは、未満児対象の遊びになるであろうことから、学生たちの記憶が薄れていたという可能性もある。

項目5, 2, 8, 13はリズム系の内容である。幼児教育における音楽的表現の指導について振り返ると、1948年（昭和23年）に刊行された『保育要領』の中で〈リズム〉〈音楽〉が領域として示され、その後1956年（昭和31年）に刊行された『幼稚園教育要領』から1989年（平成1年）までの期間は〈音楽リズム〉として示されていた。このため、幼児に対するリズム教育が盛んに行われてきた過去がある。しかしながら、1989年（平成1年）の改訂以降は〈音楽リズム〉の文言が外され〈表現〉の中に取り込ま

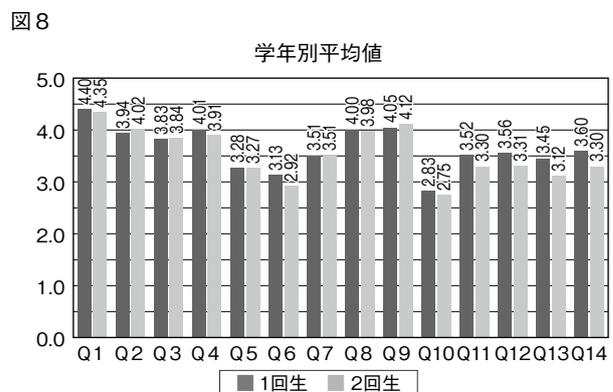
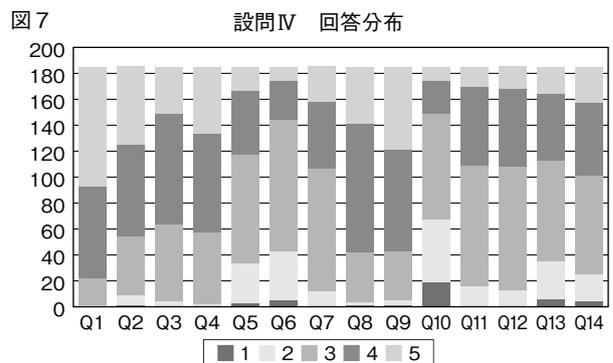
れたこともあり、意識的なリズム教育の取り組みが希薄になったと言われている。²⁾ ちょうどアンケートに回答した学生の幼少期にあたり、このような結果にも表れている。

項目6, 7は、筆者も予想した通り少数であった。音楽活動には〈演奏〉〈鑑賞〉〈創作〉といういわゆる《音楽の三方向》という概念があるが、〈創作〉の分野は音楽教育でなかなか取り上げる機会が少ないかもしれない。造形活動のように自由にキャンバスに表現するという行為を、音楽活動でももっと気軽に行えるようにするべきである。

項目14は、現在アウトリーチ活動が盛んに行われているが、学生の幼少期はまだそれほど浸透していなかったということであろうか。

【設問Ⅳ】

ここでは、将来の保育者としての学生の音楽的な考えを聞いた。



「Q1. 保育の現場で音楽活動の必要性をどの程度感じていますか。」の問いに対して、全14項目の問いの中で、4.38ポイントと一番高い得点となり、ほとんどの学生が保育の現場での音楽活動の必要性

を感じていることが分かった。

「Q13. ピアノなどの鍵盤楽器は、音楽活動を行う上で絶対に必要である。」という問いに対して、1回生は3.45、2回生は3.12となっており、0.33差があった。1年次は幼稚園教諭二種免許と保育士資格必修科目として「音楽（器楽Ⅰ）」(平成30年度入学生より「音楽（ピアノ基礎演習）」に改称)を履修する必要もあり、1回生にとってはクリアすべき重要科目の一つであることもあり、保育現場でも必要性を信じて取り組む動機づけとなっていると考えられる。

「Q8. わらべうたなど伝統的な遊びを積極的に取り入れた音楽活動を行う方が良い。」「Q9. 長く歌いつがれた曲の中にはよい曲がたくさんあるので、子どもにも伝えていった方がよい。」については、高ポイントとなった。1回生4.05、2回生4.15となっており、2年次「音楽（器楽Ⅱ）」(平成30年度入学生より「音楽（うたと伴奏Ⅰ・Ⅱ）」に改称)で文部省唱歌をはじめ、明治期以降に作られた童謡を取り上げてきた効果が表れたのだろう。

「Q5. 曲の拍子やリズムを正確に叩いたり、正確な音程で歌えるよう指導した方がよい。」「Q7. 子どもの声域の発達を知り、言葉の意味や情景が伝わるような表情豊かな歌唱表現を身につける必要がある。」は音楽の技術的なことであり、それぞれ3.28、3.51と中庸な数値となった。

「Q3. 子どもの音楽的発達について理解する必要がある。」「Q4. 聴感覚を育てるため、なるべく自然に触れ、環境音を聴く機会を設ける方がよい。」「Q12. 小学校学習指導要領や教科書を理解し、学びの連続性について考えた音楽活動をする必要がある。」の問いは、これまで授業で扱ってこなかった内容であり、今後「表現（音楽）」で学習する機会があるため学生たちの意識向上に期待したい。

「Q14. 保育の現場で行う音楽活動の中で、臨機応変に対応できるための即興的な演奏能力が必要である。」に関しても、今後、簡易伴奏法やコード伴奏などの学習機会を増やし、強化していきたい面である。

また「音楽で子どもたちにどのような力が身につ

くと考えますか。」という記述回答から多く出現したキーワードを抽出したところ、図9のような結果になった。〈リズム感〉や〈表現力〉といった音楽の基礎力ともいふべき用語と幼稚園教育要領に記載されている育みたい資質・能力のうちの用語が挙がった。

図9

キーワード	出現数
リズム感	15
表現力	11
想像力	4
感性	
感受性	3
心の豊かさ	
音楽感	2
感情の豊かさ	
聴力	
楽しさ	
適応力	1
共和性	
協調性	
創造性	
癒し	
情緒の安定	1
反復	

さらに、図10の「音楽が我々に果たす役割がある」とすれば、それは何でしょうか。」という問いに対する自由記述では、音楽の持つ〈癒し〉の力を述べている学生が多かった。これは音楽が直接情動に訴えかけてくる芸術として本来持つ力を感じたものである。

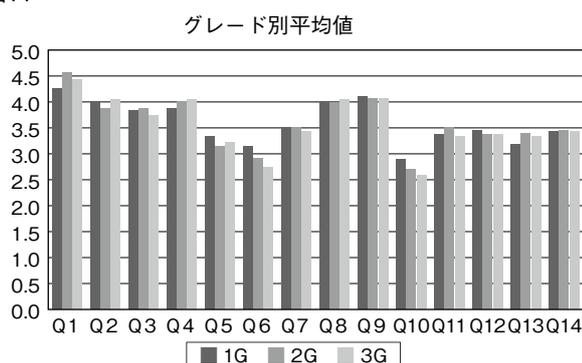
図10

キーワード	出現数
心の安らぎ、心を癒やす、リラックス、落ち着く、安定	11
快感、ストレス軽減	4
楽しむ	3
表現力、感性	2

また、幼少期の音楽経験が保育者としての音楽観に影響があるのか、ということに関して着目すると、幼少期にわらべうたを歌いながら遊んだ学生は、保育者の立場でもわらべうたなど伝統的な遊びを積極的に取り入れた音楽活動をした方がよい、と考えていたり(4.14)、いろいろなうたを歌った経験がある学生は、長く歌いつがれた曲の中にはよい歌がたくさんあるので、子どもたちに伝えていった

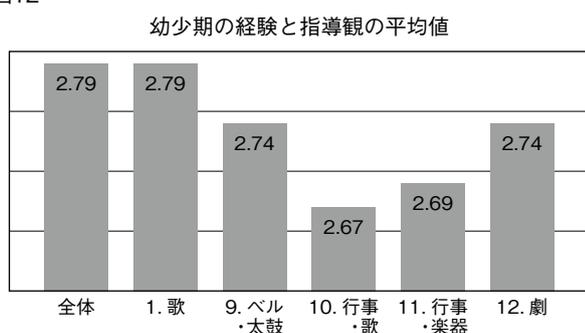
方がよい、と考えていることが分かった (4.14)。また、音楽経験者であるほど、「Q6.子どもがのってこない曲は教材からはずした方がよい。」や「Q10.教師が指導することによって、幼児は音楽を楽しめなくなるので指導しない方がよい。」と考えていないことが分かった。教師は様々な音楽の魅力を子どもたちに伝え、共に音楽で楽しむことができるこそ、教師の役割であると考えているのであろう。

図11



また幼少期に行事で歌や合奏、劇などを経験した学生も同様に、教師として子どもたちに指導は行うべきだと考えていることが分かった。そのためにも、学生時代には子どもに対する指導法というものをもっと深く学び、実践していく必要がある。

図12



4. まとめ

前述のとおり、国立教育政策研究所が調査した『平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査 児童質問紙調査結果 (音楽)』によると、音楽の授業が楽しい、役に立っていると肯定的に回答した子どもたちは小学生で47.4%、中学生で43.2%であった。今回の調査で、音楽の授業を楽しいと肯定的に回答した本学学生は47.0%、音楽の授業が大切であると肯定的に回答した学生は68.6%、授業で学ん

だことは役に立つと感じている学生が58.9%であった。また保育者として考えた時、幼児に対する音楽活動の必要性を感じている学生は88.1%に上った。これは筆者の予想を上回る好結果であった。しかし、音楽活動の高い必要性を感じてはいるが、現在の授業に対してはそれほど満足していない。学生の記述回答の中には、「自分の好きな曲を弾きたい。」「ピアノ以外の楽器を演奏したい。」「理論は難しすぎる。」など様々な感想があった。「学生が求めている授業」と「学校が学生に授業で修得してもらいたいこと」の歩み寄りが必要だとも言える。何のために音楽の授業を受けているのか、を今一度学生と共に確認しなければならない。芸術系教科・科目が、子供たちの創造性を育む上でも大切な役割を担っている、と中教審でも述べられている。初級の学生から無理なく進めていけ、曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解まで深めていける知性的な教材の研究とその教材を活用した教育の強化に取り組んでいきたい。

5. 引用資料・文献

- 1) 臼井学 (2018)『これからの時代に求められる資質・能力—音楽科の場合—』日本学校音楽実践学会第23回全国大会
- 2) 井口太 (2018)『最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導』朝日出版社 12頁

6. 参考文献

- 1) 今川恭子 (監修) (2016)『音楽を学ぶということ これから音楽を教える・学ぶ人のために』教育芸術社
- 2) 国立教育政策研究所 (2016)『小学校学習指導要領実施状況調査報告書』
- 3) 瀧川淳・古山典子 (2016)『質問紙調査を通して見る大学生の音楽教育観ならびに音楽教師像』熊本大学教育学部紀要
- 4) 田崎教子 (2013)『「表現 (音楽)」に対する保育者の保育観と音楽観—質的な質問紙調査をもとにして—』東京福祉大学・大学院紀要第4巻第1号
- 5) 日本音楽教育学会 (2016)『「音楽についてこう考える、こう言いたい」学習者アンケート』音楽教育実践ジャーナル vol.13 no.2
- 6) 古山典子・瀧川淳 (2017)『アンケート調査から見る音楽教師の音楽指導観』福山市立大学教育学部研究紀要
- 7) 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (原本)』(2017) チャイルド本社
- 8) 文部科学省中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)(中教審第197号)』(平成28年12月21日)